

活動番号

2

南越前の風、東京へ。

片岡 千宙、吉田 麗央、山口 陽翔

■活動内容

【南越前町の特産物・特産品の調査】

現地の生産現場や販売拠点での調査を実施した。具体的には、「株式会社杉休」を訪問し、生産者の方から直接、商品のこだわりや製造過程における想いを伺った。また、「道の駅 南えちぜん山海里」では、駅長へのヒアリングを行い、売れ筋商品の傾向や今後の展開についての相談を実施した。

【浅草「ちいきと」における特産品の販売・情報発信】

アンテナショップ「ちいきと」内のスペースを活用し、現地調査で得た知見をもとに特産品の展示・販売を行った。浅草を訪れる観光客や都内居住者に対し、生産者の想いや道の駅での知見を交えた対面接客を行った。

【今庄つるし柿ワークショップの企画・開催】

伝統文化への関心を高める体験型イベントとして「今庄つるし柿ワークショップ」を「ちいきと」内で開催した。イベントでは、参加者と共に今庄つるし柿の試食を行いながら、生産背景の解説やクイズ企画を通じた南越前町の魅力発信を実施した。

■町との関わり

[町内フィールドワーク]

本年度は南越前町を2回（6月27～28日、11月29～30日）訪問し、地元企業や地域住民に対するヒアリングを通し、プロジェクトの協力依頼や情報収集を行った。

[訪問場所]

・南越前町役場・道の駅南えちぜん山海里 ・花はす公園・花はす温泉 そまやま・今庄駅・忠兵衛そば・北前船主の館右近家 ・株式会社杉休・Daisan・リトリートたくら・昭和会館・今庄駅・sou's coffee roastery・古民家レストランらんたん

[イベント参加]

今庄つるし柿フェスタ（1月30日）：今庄つるし柿の体験や、地元食材を使用した郷土料理、つるし柿スイーツを味わうことができる「今庄つるし柿フェスタ」において、運営補助を行った。

本事業では、同郷会の周知も兼ねてイベントに参加し、地域コミュニティとの交流および参加促進を図った。当日は、柿の皮むきやつるし柿の吊るし方に関するレクチャーを行う体験コーナーの運営補助を担当し、来場者に対して今庄つるし柿の魅力や伝統的な製法を伝える機会を創出した。

■情報発信・共有

[公式LINEの活用]

「南越前町同郷会」周知のために運用されている「公式LINE」を活用し、ワークショップの開催告知を配信した。

[Instagramによる発信]

「奥山ゼミナール」公式Instagramおよび、「ちいきと」の公式Instagramにて告知を実施した。

[対面での周知活動] 福井県のアンテナショップ「ふくい南青山291」で開催された（10月1日）、東京福井県人会「イエロー会」に参加し、直接告知を行った。

■成果（変化）

【ワークショップの波及効果】ワークショップを通じて商品の背景や生産者の想いを深く伝えた結果、2週間の期間限定で開設した特産品販売ブースでは、店舗の通常売上ペースを大きく上回る勢いで購入が進み、現在、店頭在庫はほぼ完売の状態となっている。なお、本ブースでの追加仕入れおよび販売の予定は現時点ではないが、体験を通じて「背景」を伝えることが、消費者の購買意欲と強い関心に直結することを実証できた。また、本取り組みは「今庄つるし柿フェスタ」の認知度向上にも寄与しており、来年度以降の継続的な観光客誘致へとつながるものと確信している。

【参加者の反応】「つるし柿とチーズの料理が美味しい」「クイズがあったことで南越前町がどのような町か知ることができ、身近に感じた」といった肯定的な声を多くいただいた。加えて、イベント参加者の中には外国人旅行者もおり、つるし柿の味やストーリー性、見た目の特徴に対して高い評価が寄せられたことから、今後はインバウンド需要やグローバル市場を視野に入れた展開の可能性も感じられた。一方で、「他産地との比較があればより理解が深まった」という要望もあり、地域資源の独自性や価値を、他地域との対比を通じて客観的・多角的に伝えていく重要性を改めて認識した。

【活動を通じた自身の変化】活動前は「このプロジェクトを通して南越前町を知らない人に影響を与え、町を少しでも良くしたい」という、どこか外部からの視点で考えていた。しかし、実際に現地を訪れ、生産者や住民の方々と対話を重ねる中で、町は「他人事」から「自分たちも深く関わるべき対象」へと変化した。今回の経験から、一度きりの活動で何かが劇的に変わるという考えではなく、信頼関係を築き、継続的に関わり続けることこそが必要不可欠であると痛感している。ワークショップの参加者がそうであったように、特産品や地域の背景にある「作り手の想い」や「ストーリー」を深く理解することは、その対象への強い愛着や支持を生む最短の道であると確信した。あらゆる物事の背景にある価値を汲み取る重要性を学び、今後も一人の関係人口として、南越前町の活動や商品に主体的に関わり続けていきたいと考えている。

■活動に関する写真等

